



学校だより

東京都立府中けやきの森学園
〒183-0003 府中市朝日町 3-14-1
TEL 042-367-2511 FAX 042-369-8476
<https://www.fuchu-keyaki-sh.metro.tokyo.jp>
令和6年12月25日(水)発行 第10号

2学期を振り返って～普段の学習と行事～

副校長 宮本 光司

夏から冬へ季節が移り変わる2学期が終わりました。気温の変化が大きい中、各御家庭では子どもたちの体調管理に心を配ってください、ありがとうございました。明日から冬季休業日が始まります。

◆2学期を振り返って

この2学期、普段の学習が充実するとともに、行事や外部の方との交流が進みました。校外学習、宿泊行事、交流学习、スポーツ大会、出前授業、文化祭、PTAけやきまつり等々…。2学期には、このように多くの行事や交流がありました。数え上げると相当な数になります。それぞれの様子については、学年だより、学校だより等でお伝えしてきたとおりです。

実は、普段の授業と行事等の両立は悩ましいところで、行事は少ないほうがよいとされることもあります。行事等があると時間割が変わり、子供たちにとっては見通しをもちづらくなるという側面もあるためです。その一方、行事等の特別な経験は、その行事へ向けた学習も含めて、貴重な成長の機会にもなります。本校では、普段の学習と行事等が相互に関わって子供たちを育てていくと考え、行事等の機会を大切にしています。

行事等のメリットは何でしょうか。基盤となるのは、日頃の御家庭や学校で積み上げてきた子供たち一人一人の力です。その上で、子供たちにとって行事は楽しみであり意欲が高まる、特別な経験ができる、ICT・スポーツ等々の専門家の力を活用できる、子供たちが好きなことや得意なことの発見の場になる、など多くのメリットがあります。行事等の経験は良い思い出になり、ウェルビーイングにもつながると考えられます。

改めて子供たちの成長を感じることができた2学期でした。一人一人の成長を、1年間のまとめの時期となる3学期につなげていきたいと考えます。

◆冬休みに向けて

年末年始は、御家族や親せき・知人の方等と過ごす貴重な機会です。地域の伝統的な行事や文化に触れる機会でもあります。子供たちには、冬休みを十分に楽しんでほしいと思います。時には夜更かしをする日もあるでしょう。学校が始まる時には生活リズムを戻して、3学期を迎えましょう。

問合せ

御連絡は、下記までお願いいたします。

◇平日（午前8時30分から午後5時まで） 042-367-2511（学校の代表番号）

冬季休業中の生活について

生活指導部主任 梅景 靖之

○安全に過ごすために

- ・一人で外出する時は、必ず行き先や同行者、帰宅時間、連絡方法等をきちんと伝える。
- ・自転車で外出する場合は、交通ルールを守り、交通事故の防止に努める。
- ・暴力行為、万引き等、飲酒・喫煙、異性トラブル、無断外泊、深夜徘徊など非行や犯罪等の未然防止に努め、社会の基本的なルールを確認する。
- ・パソコン、携帯電話、スマートフォン等の情報機器の適切な利用方法を確認する。家庭内においてもその利用に関わるルールを決めた上で利用する。※「学校生活について」も御参照ください。
- ・犯罪や事件事故に巻き込まれないよう自ら危険回避する力をつける。※「いかのおすし」を繰り返し教え、「防犯ブザー」の携帯など、いざという時の危険回避の具体的な方法について御確認ください。

○健康に過ごすために

- ・早起き、適切な食事を心がけ、規則正しい生活を送る。
- ・運動をする時間を設け、健康の保持・増進、体力の向上を図る。
- ・日々の体調管理をこれまで同様に行う。

○何か気になる様子が見られたら

- ・学校に御連絡、御相談する。
- ・相談窓口へ相談する。

(児童・生徒、そして保護者も悩みを抱えないで。)



こころの健康教育について

生活指導部副主任 山田 由佳

本校の児童・生徒の中には、様々な悩み事や困り事を整理し、言葉にして、それを誰かに伝えたり、相談したりすることが苦手な人が多くいます。「今は近くに家族や先生がいるけれど、社会人になったら誰に相談したらいいの・・・」と、卒業してから不安な思いをしないよう、安全で安心な生活を送るために、必要な時にSOSを出させる力を身に付けて欲しいという思いから、本校では卒業を控えた両部門の高等部を対象に、令和3年度から、東京都多摩府中保健所と連携して「こころの健康教育」に取り組んでまいりました。A部門高等部の授業では、「安心して相談できる相手について」、B部門高等部の授業では、1年生では「こころのモヤモヤとは何か」、2年生では「こころのモヤモヤを感じた時の対処法について」、3年生では「安心して相談できる相手について」等、系統的に学習を進めることができるよう、ねらいをしばって取り組みました。また、各授業には、府中市・三鷹市・調布市・狛江市の地域支援者の方々にも御参加頂きました。生徒が考え、自分の答えを出す際にサポートをして頂いたり、自己紹介の中でどのような相談を受け付けているのかなどについてお話し頂いたりしました。

高等部3年生は、あと3か月で学校を卒業し、新たな環境で新生活をスタートさせます。在学中のみならず、社会に出てからも地域で安心して相談できる人をつくっておくことが大切です。本取組において卒業後も続く切れ目のない支援体制をつくるきっかけができたと思います。これからも、学校だけでなく、地域とも連携ながら、児童・生徒の皆さんが在校中も、そして卒業してからも、充実した毎日を過ごせるよう努めてまいります。



研究活動 ー 授業研究と授業観察

指導教諭 田中 美成

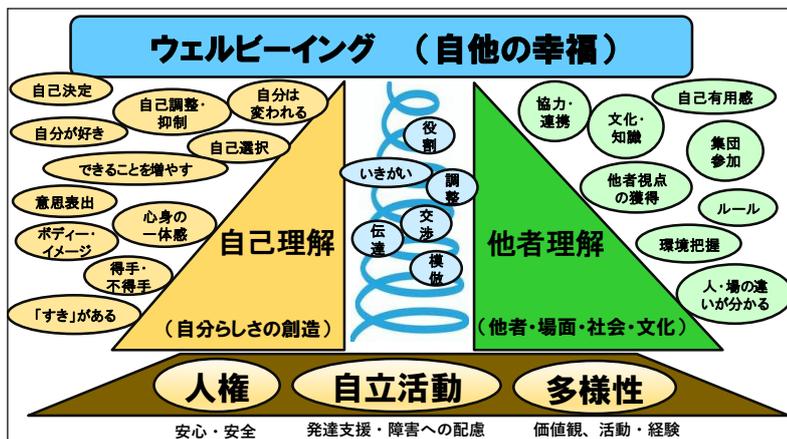
今年度、本校では研究活動の一環として、『一人1実践』を合言葉に、『授業研究』、『授業観察』、『教材展』の3つの中から、各教員が一つを選び、実践しています。9月には『教材展』の様子をお伝えしましたので、今回は『授業研究』、『授業観察』についてお伝えします。

【授業研究】自分が担当している授業を他の教員に観察してもらい、授業改善のための助言を受けたり、教材や授業展開などについてのアイデアを教わったりします。1年目・2年目・3年目の若手教員と教員経験10年を迎えた中堅教員が、研修の一環として年3回授業研究を行っています。それに加え、希望する教員の授業研究も実施しています。今年度は年130回程度の授業研究を行う予定です。

【授業観察】今年度から新たに研究活動の1つとして取り入れました。他の教員の授業を見て、その様子进行评估して助言したり、アイデアを提案したりします。「この観点に沿って観察しよう」と意識して授業を見ることで、今まで気付かなかったことに気付くことがあります。また、他の教員の授業を見ることで、「自分は〇〇していたけど、この先生のやり方も面白い」と授業のヒントを得られたり、「この先生のように自分は〇〇できていなかったのでは」と自分を顧みることに繋がったりしています。授業を行う人が『教わる人』、ベテラン教員が『教える人』という構図ではなく、授業をする人も見る人も、相互に学び合い高め合う機会として、授業研究・授業観察を行っています。右下に、授業観察した教員の感想の一部を載せましたので、御覧ください。

【ウェルビーイング】授業研究で作成する学習指導案の最後には、今年度の本校の研究テーマである「ウェルビーイング」について記載しています。左下図にあるウェルビーイング図のキーワードから、その授業の中で大切にしていけるものを選んで記入しています。選ばれたキーワードで最も多かったのが、『意思の表出』でした。『意思の表出』は、『集団参加』や『自己調整・抑制』と合わせて選ばれることも多く、教員の多くが「自分の気持ちをしっかり表現しながら、集団参加したり、自分を抑えたりしてほしい」と考えていることがうかがえます。また、『好きを見付ける』『自分なりのものの見方・感じ方』などの独自のキーワードを設定する教員もおり、『自分らしさ』を大切にしてほしいという願いも感じられました。

授業研究や授業観察では、学習指導要領による3観点評価にも力を入れています。教員の授業力向上が児童・生徒のウェルビーイングにつながるよう、努めていきたいと思ひます。



ウェルビーイング図

授業観察の感想から

自分は小学部なので、高等部の学習を参観し、とても新鮮で、納得する部分が多かった。特に個別に配慮しながらの場の設定・工夫が、とても理にかなっていて印象に残った。

自身の授業や実践を振り返り、若手の先生方に助言することができる良い機会となりました。

中学部を見学し、中学部での学習の積み重ねが高等部につながっていることを改めて感じました。

「今」できること

進路専任 工藤 勇太

進路指導においては、望ましい勤労観と職業観の育成がとても大切です。勤労観とは将来の生活のために自分でやれることを増やし、役割を果たそうとする態度や意欲のことで、職業観とは具体的な職業に関する知識や技能を学び、主体的に自らの生き方や進路選択ができる能力のことです。

小学部、中学部段階では勤労観の育成に重点をおき、そこで身につけた勤労観を土台として、高等部では職業観の育成が図られます。進路先の会社や福祉事業所に「働くうえで大切なことは何ですか？」という質問をすると、「挨拶ができる」「時間を守る」「体力がある」といった日常生活上の望ましい習慣が身につけているかどうかという回答が多く聞かれます。こうした習慣を身につけることがまさに勤労観の育成です。つまり、日常生活の中には将来の進路選択につながる学習の機会がたくさんあるのです。

高等部に入ると、自分の職業適性や生き方を考える力である職業観を育てるための授業が多くなります。その代表的な授業が現場実習です。実際に会社や福祉事業所で数日から一週間程度の体験をして、自分の適性を考えていきます。勤労観と職業観という二つの観点から、子どもたちが「今」できることは何か、御家庭でも是非話題にしていただければと思います。

給食試食会

栄養士 池原 悠

面田 美樹

令和6年12月11日（水）に保護者対象の「給食試食会」を実施し、31名の保護者の方に御参加いただきました。給食試食会では、本校の学校給食についての説明の後、給食（普通食・後期食・中期食・初期食）を試食していただきました。御参加いただいた保護者の方々からは、温かい御意見・御感想をたくさんいただくことができました。今後も栄養士・調理員一同、安心・安全でおいしい給食を提供することができるよう努めてまいります。

◆当日の献立：牛乳、きな粉揚げパン、ポークビーンズ、ツナと野菜のサラダ、カルピスポンチ

御参加いただいた方の御意見・御感想（抜粋）

- 一口食べて、おいしさに驚嘆しました。形態食も全種類比べましたが、感動的でした。私が思い出に残る給食になった気がします。そして、子供もこんなおいしくて温かい給食を食べさせてもらえて幸せだなんて、心から感謝しました。
- 家の食事はあまり食べないのに給食だけは完食、おかわりまでするのでいつも気になっていました。とてもおいしく、軟らかさもあり、子供が食べる理由が分かりました。形態食もとてもしっかり味付けされていて、子供たちが喜ぶなあと感じました。
- 形態食について学ぶことができる貴重な機会であり、今回もいくつもの学びがありました。
- 給食の意義や栄養士さん達の思い、調理師さん達の働きぶりを丁寧に教えていただいて、本当によい時間を過ごすことができました。
- 調理員さんが丁寧に作ってくださることを知れて良かったです。



「植栽活動」(知的障害教育部門中学部1年) ～堆肥プロジェクト～

堆肥プロジェクトメンバー 犬飼 晃

12月13日(金)に本校B部門中学部1年生が、飛田給駅前ロータリーにて、植栽活動に参加しました。寒い日でしたが、調布特別支援学校の中学部1年生、ボランティアのちようふ花未来くらぶの皆さん、調布市役所の公園課の職員の皆さんと協力して、フラワーメリーゴーランドにパンジーの花を植え付けました。それぞれ花を選んで、好きなところに花を配置して、綺麗な花のオブジェを完成させました。

調布特別支援学校と花未来くらぶの皆さんへは、学校給食の残渣などから作ったけやき特性の「堆肥」とB中学部の作業学習で作った紙工班の作った「はがき」をハンドワーク班の作った「紙袋」に入れてプレゼントし、大変喜んで頂きました。



「個に応じた活用方法」(肢体不自由教育部門高等部) ～ICT教育推進～

ICT教育推進担当 本間 欽瑛

肢体不自由教育部門高等部では、生徒の実態に合わせてICT機器を活用しています。Aグループでは2画面表示を生かし、デジタル教科書を見ながらメモを取る使い方をしています。B1グループでは、クリアファイルのデザイン案で使用し、自分のアイデアをより正確に表現できるようになりました。B2グループでは、スケジュール管理をしています。自分でイラストを動かして、カレンダーに貼り付けることで、予定の見通しがもちやすくなりました。Cグループでは、体育のターゲットボールの際にロボットと接続して使うことで、自らボールを投げるのが難しい生徒もゴールする楽しさを知ることができました。今後も生徒一人一人に合った活用方法を考え、実践していきます。



「地域調べ学習」(知的障害教育部門高等部1年) ～ICT教育推進～

ICT教育推進担当 荒木 宏太

知的障害教育部門高等部1年生の総合的な探究の時間では、身近な地域への理解を深めるため、自分たちの学区の4市(府中市、調布市、三鷹市、狛江市)について、グループで一人1台端末を用いた調べ学習を行いました。

1回目の授業では、観光名所、ご当地キャラ、名産品などについて、一人1台端末のブラウザ機能やスクリーンショット機能を使って資料を集めました。2回目の授業では、それらの資料をまとめて市の紹介ポスターを制作しました。3回目では、作成したポスターをグループごとに発表しました。端末の操作に慣れている生徒は、自ら進んで情報を集めることが出来ました。操作に慣れない生徒は教師と一緒にやり方を確認しながら行いました。仲間同士で協力してポスターを完成させることが出来ました。

